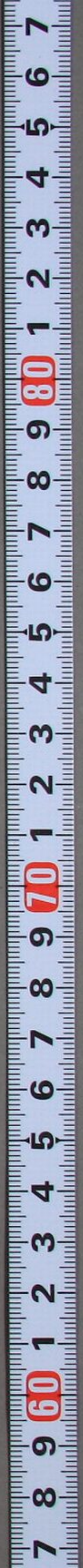




古くは
かき
く

の
の





わ



拾遺三 月夜心ひつらと所とむひのわらわしとをまきぞれ よるふり

後拾冬 ちりぬもろと海津の氷くれ わらふり此風いよ 大貳三位

新葉冬 漆子志を風さしりもかく わらふり山は雪乃のあ 妙光寺内大下

新拾冬 不月夜よ小藤う原とて共 わらふりよつここの池水 順徳院書出

新拾冬 ささり練もいこりやま わらふりわらふり此 荻原雅歌

新拾冬 初雲のありまきと風さしり わらふりささりまき 皇太后宮

新拾冬 初子鬚旅 初れぬうととととととと わらふりささりまき 権大納言忠

新拾冬 拾玉集七 風さしとねとあつとととと わらふりささりまき 荻原雅歌

新拾冬 拾玉集七 つつふせんあつとととととと わらふりささりまき 荻原雅歌

新拾冬 拾玉集七 つつふせんあつとととととと わらふりささりまき 荻原雅歌

新拾冬 拾玉集七 つつふせんあつとととととと わらふりささりまき 荻原雅歌

新拾冬 拾玉集七 つつふせんあつとととととと わらふりささりまき 荻原雅歌

新拾冬 拾玉集七 つつふせんあつとととととと わらふりささりまき 荻原雅歌

新拾冬 拾玉集七 つつふせんあつとととととと わらふりささりまき 荻原雅歌

新拾冬 拾玉集七 つつふせんあつとととととと わらふりささりまき 荻原雅歌

新拾冬 拾玉集七 つつふせんあつとととととと わらふりささりまき 荻原雅歌

忠房新片

小野小町

荻原興風

中務

大納言經信

荻原國房

荻原雅歌

皇太后宮

権大納言忠

荻原雅歌

妙光寺内大下

順徳院書出

荻原雅歌

皇太后宮

権大納言忠

荻原雅歌

妙光寺内大下

順徳院書出

荻原雅歌

皇太后宮

権大納言忠

荻原雅歌

妙光寺内大下

順徳院書出

荻原雅歌

皇太后宮

権大納言忠

荻原雅歌

妙光寺内大下

順徳院書出

子裁書下 九重いなり山あきさうりてま

わすれらけりてまらじ 奉天宮大元

拾玉集一 山吹乃うらり水さみくれて

わその蛙れけりしむあり

同 友重の思ひのこゝろ昔のハ

わすれ蛙もけりしむあり

同六 山あきさうり水さみくれて

わすれ河原さきまらりそ

同 山吹乃あけぬさうり水さみくれて

わすれ河原さきまらりそ

長秋詠集 ころりけり心をさうりてまらじ

わすれ山吹さきまらりそ

拾遺自坐 ころりけり心をさうりてまらじ

わすれ山吹さきまらりそ

拾玉集二 年頃ておのれはけりしむあり

わすれ山吹さきまらりそ

玉葉春下 春あきさうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

大和抄 ころりけり心をさうりてまらじ

わすれ山吹さきまらりそ

千載春下 山吹乃あけぬさうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

新古今下 山吹乃あけぬさうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

同 山吹乃あけぬさうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

後拾春下 山吹乃あけぬさうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

後拾拾冬 山吹乃あけぬさうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

同 山吹乃あけぬさうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

後拾新集 山吹乃あけぬさうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

風雅冬

わすれ山吹さうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

新古今冬

わすれ山吹さうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

山家集

わすれ山吹さうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

新古今下

わすれ山吹さうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

山家集上

わすれ山吹さうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

新古今冬

わすれ山吹さうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

拾玉集七

わすれ山吹さうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

拾遺集上

わすれ山吹さうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

山家集上

わすれ山吹さうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

拾遺集下

わすれ山吹さうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

新古今集上

わすれ山吹さうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

拾遺集下

わすれ山吹さうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

山家集下

わすれ山吹さうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

新古今集上

わすれ山吹さうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

拾遺集下

わすれ山吹さうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

山家集下

わすれ山吹さうり水さみくれて

わすれ山吹さきまらりそ

の

古今和名 秋や花をらむすの人のあはれなるをみもる とも乃り

壬生三上 露やむと肌や赤く秋の人のあはれなるをみもる とも乃り

拾遺愚草 今より秋月の子とらむる人のあはれなるをみもる とも乃り

後二位 藤原 けり花をらむる人のあはれなるをみもる とも乃り

新古今秋上 かり衣をらむる人のあはれなるをみもる とも乃り

合葉秋 文意乃らむる人のあはれなるをみもる とも乃り

新古今秋上 あはれなる人のあはれなるをみもる とも乃り

拾玉集二 るる人のあはれなるをみもる とも乃り

後子秋上 ろる人のあはれなるをみもる とも乃り

拾玉集二 俺人のあはれなるをみもる とも乃り

同三 うつりたる人のあはれなるをみもる とも乃り

同三 ひのき秋月とらむる人のあはれなるをみもる とも乃り

新勅雅一 生の子のあはれなるをみもる とも乃り

後古今秋上 秋の人のあはれなるをみもる とも乃り

新後古今上 昔の人のあはれなるをみもる とも乃り

拾遺自外 心とらむる人のあはれなるをみもる とも乃り

源教親

中納言俊忠

後三位藤原

在後醍醐天皇

選子尚親王

九近古御時

皇太后

後成

源教親

玉葉集下 遠く山をさうらひ花さきり 乃の想をまげりひの志 亦は二階
 新羅古集上 月さくは雲をかきわく 乃の想をまげりひの志 三條道基集下
 山家集上 常多の花はかりて女の人や 乃の想をまげりひの志 女師御子集
 壬生二京上 常多の花はかりて女の人や 乃の想をまげりひの志 女師御子集
 後古訓別 みるは秋風心よをす物ハ 乃の想をまげりひの志 西行法師
 拾玉集三 みるは秋風心よをす物ハ 乃の想をまげりひの志 西行法師
 玉葉集四 みるは秋風心よをす物ハ 乃の想をまげりひの志 西行法師
 拾遺草上 大なる月さくは雲をかきわく 乃の想をまげりひの志 西行法師
 新羅古集上 月さくは雲をかきわく 乃の想をまげりひの志 西行法師
 拾遺草 月さくは雲をかきわく 乃の想をまげりひの志 西行法師
 新羅古集上 月さくは雲をかきわく 乃の想をまげりひの志 西行法師
 手載冬 山さくは雲をかきわく 乃の想をまげりひの志 西行法師
 新羅古集上 山さくは雲をかきわく 乃の想をまげりひの志 西行法師
 拾玉集又 山さくは雲をかきわく 乃の想をまげりひの志 西行法師
 壬生二京上 山さくは雲をかきわく 乃の想をまげりひの志 西行法師
 千載冬 山さくは雲をかきわく 乃の想をまげりひの志 西行法師
 後撰雜三 山さくは雲をかきわく 乃の想をまげりひの志 西行法師
 拾遺草下 山さくは雲をかきわく 乃の想をまげりひの志 西行法師

玉葉秋上 一社の花はつらにありて 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣
 長秋冰壁 何ともおのひさし秋の程 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣
 壬生二京上 白雲秋秋花やまの人のふ 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣
 拾遺草上 何れも心はつらにありて 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣
 玉葉雜五 何れも心はつらにありて 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣
 後古集上 何れも心はつらにありて 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣
 風雅集上 何れも心はつらにありて 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣
 玉葉集上 何れも心はつらにありて 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣
 新葉春上 何れも心はつらにありて 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣
 若菜上 何れも心はつらにありて 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣
 山家集下 何れも心はつらにありて 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣
 新羅古集上 何れも心はつらにありて 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣
 風雅雜上 何れも心はつらにありて 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣
 新羅古集上 何れも心はつらにありて 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣
 拾遺雜上 何れも心はつらにありて 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣
 風雅集上 何れも心はつらにありて 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣
 後撰集下 何れも心はつらにありて 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣
 壬生二京上 何れも心はつらにありて 乃の想をまげりひの志 堀河右大臣

新葉秋上

とほりてはむらさきもあはれし秋のふかき

拾玉集二

山さきよまはれぬ花実さき乃の宿

子載秋下

あけぬ秋風はしらけり乃のけ

拾玉集二

喜もなまもあはれし乃のけ

新勅抄

いづれはあはれし乃のあ

後撰古今

今朝のあはれし乃のあ

詞花秋

くちねもあはれし乃のあ

玉葉秋上

由露もあはれし乃のあ

玉葉秋上

秋風は日したくあはれし乃のあ

後撰秋中

いづれはあはれし乃のあ

後撰秋上

あはれし乃のあ

玉葉集一

あはれし乃のあ

月清集上

あはれし乃のあ

新葉春上

あはれし乃のあ

後撰春上

あはれし乃のあ

古今集上

あはれし乃のあ

新撰拾冬

あはれし乃のあ

新撰古上

あはれし乃のあ

新撰古二

あはれし乃のあ

拾遺集上

あはれし乃のあ

拾玉集二

あはれし乃のあ

新撰秋上

あはれし乃のあ

新撰秋上

あはれし乃のあ

拾玉集二

あはれし乃のあ

同四

あはれし乃のあ

風雅冬

あはれし乃のあ

山家集上

あはれし乃のあ

後撰古上

あはれし乃のあ

風雅雜上

あはれし乃のあ

壬生二系上

あはれし乃のあ

風雅秋上

あはれし乃のあ

後撰拾賀

あはれし乃のあ

新撰尺教

あはれし乃のあ

定春長親

源俊賴

大僧正親嚴

忠孝相国

聖武天皇

本后能宣

後醍醐天皇

少輔

道長大臣

後村上院

紀友則

今二系親

春長親

源俊賴

源俊賴

源俊賴

源俊賴

源俊賴

源俊賴

源俊賴

源俊賴

源俊賴

源俊賴

源俊賴

源俊賴

源俊賴

源俊賴

後撰櫻葉 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 後撰櫻葉 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 拾遺抄系 志代のあはれ山のひあり 乃のひは月射影もん分り 前中納言巨房
 長秋詠草 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 玉葉喜上 まるね梅のよきまよき 乃のひは月射影もん分り 前中納言巨房
 拾遺抄系 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 新撰古賀 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 風雅雜上 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 新撰古賀上 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 新撰古賀三 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 新撰古賀二 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 後撰櫻葉 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 拾遺抄系 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 新撰古賀下 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣

新撰古賀三 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 後撰古賀三 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 新撰古賀五 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 拾遺抄系上 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 後撰櫻葉三 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 玉葉喜四 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 後撰櫻葉 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 新撰古賀下 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 玉葉喜下 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 玉葉喜二 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 拾遺抄系一 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 玉葉喜一 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 新撰古賀二 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣
 新撰古賀下 春のふせけみき 花のりり せは枯しあ 幸 隆信朝臣

拾遺雅下
 後古急四
 風雅秋下
 新勅急三
 新勅急二
 玉葉賀
 拾遺集七
 長秋詠藻下
 新拾急四
 後拾急四
 新勅急三
 新勅急二
 玉葉尺教
 金葉雅下

山崎集下
 後拾遺尺教
 新勅尺教
 長秋詠藻
 後古尺教
 風雅尺教
 玉葉尺教
 拾遺雅下
 後古尺教
 新勅尺教
 玉葉尺教
 金葉雅下

山崎集下
 後拾遺尺教
 新勅尺教
 長秋詠藻
 後古尺教
 風雅尺教
 玉葉尺教
 拾遺雅下
 後古尺教
 新勅尺教
 玉葉尺教
 金葉雅下

山崎集下
 後拾遺尺教
 新勅尺教
 長秋詠藻
 後古尺教
 風雅尺教
 玉葉尺教
 拾遺雅下
 後古尺教
 新勅尺教
 玉葉尺教
 金葉雅下

山崎集下
 後拾遺尺教
 新勅尺教
 長秋詠藻
 後古尺教
 風雅尺教
 玉葉尺教
 拾遺雅下
 後古尺教
 新勅尺教
 玉葉尺教
 金葉雅下

山崎集下
 後拾遺尺教
 新勅尺教
 長秋詠藻
 後古尺教
 風雅尺教
 玉葉尺教
 拾遺雅下
 後古尺教
 新勅尺教
 玉葉尺教
 金葉雅下

山崎集下
 後拾遺尺教
 新勅尺教
 長秋詠藻
 後古尺教
 風雅尺教
 玉葉尺教
 拾遺雅下
 後古尺教
 新勅尺教
 玉葉尺教
 金葉雅下

山崎集下
 後拾遺尺教
 新勅尺教
 長秋詠藻
 後古尺教
 風雅尺教
 玉葉尺教
 拾遺雅下
 後古尺教
 新勅尺教
 玉葉尺教
 金葉雅下

拾玉集五

新初尺教

拾玉集四

月清集上

新子尺教

新拾尺教

新子尺教

玉葉尺教

拾玉集四

同六

新拾尺教

新子尺教

新子尺教

新千尺教

長秋詠藻下

拾遺集傷

玉葉尺教

山あつとまじれみちよつひと
のりはれとををりする
なま盛るる

ふしけつ井はらるる金身
のりはれとををりする
のりはれとををりする

さつき世のまほろふまふれ
のりはれとををりする
のりはれとををりする

赤さつあまのほろまほろ
のりはれとををりする
のりはれとををりする

谷のまほろけつとまのひさ
のりはれとををりする
のりはれとををりする

教さつぬまの若川あつと
のりはれとををりする
のりはれとををりする

さつきにまほろ代まのまほ
のりはれとををりする
のりはれとををりする

赤さつきまほろけつとま
のりはれとををりする
のりはれとををりする

ふとほつとほのまほろ
のりはれとををりする
のりはれとををりする

赤さつきまほろけつとま
のりはれとををりする
のりはれとををりする

ふとほつとほのまほろ
のりはれとををりする
のりはれとををりする

赤さつきまほろけつとま
のりはれとををりする
のりはれとををりする

ふとほつとほのまほろ
のりはれとををりする
のりはれとををりする

赤さつきまほろけつとま
のりはれとををりする
のりはれとををりする

ふとほつとほのまほろ
のりはれとををりする
のりはれとををりする

赤さつきまほろけつとま
のりはれとををりする
のりはれとををりする

ふとほつとほのまほろ
のりはれとををりする
のりはれとををりする

壬生二上

新子尺教

新子尺教

新子尺教

新子尺教

拾玉集四

拾遺集傷

後信撰卷

拾玉集四

同三

拾遺集上

新子尺教

山家集上

玉葉尺教

月清集上

拾遺集草中

後古喜下

又つめ風を渡けるよまつむを
のりはれとををりする
のりはれとををりする

めつらあふ勢りしるけつを
のりはれとををりする
のりはれとををりする

ねつり一葉一あれまうさる
のりはれとををりする
のりはれとををりする

なれみそ花乃たれとを打
のりはれとををりする
のりはれとををりする

寺のまほろかされてとれそ
のりはれとををりする
のりはれとををりする

枯そそ一鶴林乃くま
のりはれとををりする
のりはれとををりする

やまみまてまほろけつとま
のりはれとををりする
のりはれとををりする

いっつとまほろけつとま
のりはれとををりする
のりはれとををりする

あふのまほろけつとま
のりはれとををりする
のりはれとををりする

日よそつとまほろけつとま
のりはれとををりする
のりはれとををりする

うさ風つとまほろけつとま
のりはれとををりする
のりはれとををりする

みか月乃みらゆさそを
のりはれとををりする
のりはれとををりする

ありあけ二乃乃まほろ
のりはれとををりする
のりはれとををりする

ふ月あままほろけつとま
のりはれとををりする
のりはれとををりする

まほろけつとまほろけつとま
のりはれとををりする
のりはれとををりする

花さつりりりりりりりり
のりはれとををりする
のりはれとををりする

まほろけつとまほろけつとま
のりはれとををりする
のりはれとををりする

まほろけつとまほろけつとま
のりはれとををりする
のりはれとををりする

まほろけつとまほろけつとま
のりはれとををりする
のりはれとををりする

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

入道正親源

新古今

後子文

拾玉集一

新古今秋上

風雅友

新古今秋上

拾遺草下

月情集上

拾玉集六

大和物語

拾玉集三

新古今秋上

風雅雜下

新古今秋下

風雅秋中

新古今秋中

新古今秋上

風雅冬三

新古今秋上 今より八宿とそこのへよりまきまき

昨日までまきまきとら 果の房

若の末のれとみく 雲霞

かりまきとまきまきとら 雲霞

んをそのの衣のまきまきとら

つらほあはれとのまきまきとら

おしとまきまきとら 人の乃命

いさめた吹風よはなひくつき

力のまきまきとら ありひ

んまきまきとら ありひ

山深くまきまきとら 世中を

んを吹くまきまきとら 世の中を

ひらひらまきまきとら ありひ

んまきまきとら ありひ

んまきまきとら ありひ

静なるんまきまきとら ありひ

うきまきまきとら ありひ

のをまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

新古今秋上

新古今秋中

新古今秋下

新古今秋上

新古今秋中

新古今秋下

新古今秋上

新古今秋中

新古今秋下

新古今秋上

新古今秋中

新古今秋下

新古今秋上

新古今秋中

新古今秋下

新古今秋上

新古今秋中

新古今秋下

新古今秋上 今より八宿とそこのへよりまきまき

昨日までまきまきとら 果の房

若の末のれとみく 雲霞

かりまきとまきまきとら 雲霞

んをそのの衣のまきまきとら

つらほあはれとのまきまきとら

おしとまきまきとら 人の乃命

いさめた吹風よはなひくつき

力のまきまきとら ありひ

んまきまきとら ありひ

山深くまきまきとら 世中を

んを吹くまきまきとら 世の中を

ひらひらまきまきとら ありひ

んまきまきとら ありひ

んまきまきとら ありひ

静なるんまきまきとら ありひ

うきまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

のまきまきとら ありひ

山花集下 去れはあゆみの縁の三つりく
 壬生二品上 一枝はらるるもゆらん秋意の
 四下 じつとしほき月々の山の家
 新勅念三 きれぬよつそきもあし月影の
 於送意上 月影乃ゆれをほくすまのま
 新子交 天川雲れみよの月うけき
 後子秋上 雲と向空のいづの秋風よ
 新は松雅下 せりぬれあも八十はあやあま
 新後意上 なれぬるるもまきうた世中よ
 河花雅上 今八つじつそつひさきひさき
 新拾書下 こそみりこそはもいり出さる
 於送意下 雲の雲の尾花よ師王候むれ
 新勅書下 さらの尾上げ花よまきこれ
 於送意上 けさ乃ん人のまあるうとて
 後拾書下 せりぬれあもまきうた世中よ
 玉景書下 気物くもあもあの花ゆへよ
 後古雅上 さらももれは海うりまさら
 新古雅別 君よ又わくま川と侍るまよ

のりりおほるるちをくれ
 のりりおほるる秋意の
 のりりおほるる月影の
 のりりおほるる山の家
 のりりおほるる月影の
 のりりおほるる天川雲れみよの月うけき
 のりりおほるる雲と向空のいづの秋風よ
 のりりおほるるせりぬれあも八十はあやあま
 のりりおほるるなれぬるるもまきうた世中よ
 のりりおほるる今八つじつそつひさきひさき
 のりりおほるるこそみりこそはもいり出さる
 のりりおほるる雲の雲の尾花よ師王候むれ
 のりりおほるるさらの尾上げ花よまきこれ
 のりりおほるるけさ乃ん人のまあるうとて
 のりりおほるるせりぬれあもまきうた世中よ
 のりりおほるる気物くもあもあの花ゆへよ
 のりりおほるるさらももれは海うりまさら
 のりりおほるる君よ又わくま川と侍るまよ

中絶
 有原景經
 大徳隆弁
 兼延法師
 有原景經
 兼延法師
 有原景經
 兼延法師

後古雅上 我もや秋のけれきりくも
 後子書下 けき乃日影よ花も袖うもそ
 後古雅下 今そ口まきゆのいりのまき
 新勅雅一 け秋とられてし月影あもに
 佛法 せすいしとくらまやハさきき
 後拾書後 けさ乃日影よ花も袖うもそ
 後子雅上 けさ乃日影よ花も袖うもそ
 新は松雅中 けさ乃日影よ花も袖うもそ
 於玉集三 あよともお推して山へよ
 於送意上 けさ乃日影よ花も袖うもそ
 回下 うのりひし音のりぬの都とそ
 後子雅上 今そ口まきゆのいりのまき
 於送意下 けさ乃日影よ花も袖うもそ
 風雅書下 けさ乃日影よ花も袖うもそ
 風雅雅中 けさ乃日影よ花も袖うもそ
 後子雅上 けさ乃日影よ花も袖うもそ
 後子秋下 月影の遠きりめ山乃とに
 風雅書上 けさ乃日影よ花も袖うもそ

のりりおほるるちをくれ
 のりりおほるる秋意の
 のりりおほるる月影の
 のりりおほるる山の家
 のりりおほるる月影の
 のりりおほるる天川雲れみよの月うけき
 のりりおほるる雲と向空のいづの秋風よ
 のりりおほるるせりぬれあも八十はあやあま
 のりりおほるるなれぬるるもまきうた世中よ
 のりりおほるる今八つじつそつひさきひさき
 のりりおほるるこそみりこそはもいり出さる
 のりりおほるる雲の雲の尾花よ師王候むれ
 のりりおほるるさらの尾上げ花よまきこれ
 のりりおほるるけさ乃ん人のまあるうとて
 のりりおほるるせりぬれあもまきうた世中よ
 のりりおほるる気物くもあもあの花ゆへよ
 のりりおほるるさらももれは海うりまさら
 のりりおほるる君よ又わくま川と侍るまよ

中絶
 有原景經
 大徳隆弁
 兼延法師
 有原景經
 兼延法師
 有原景經
 兼延法師

新古今集上 冬も雪もたけひあけし 嘆きもて

月清集下 空つらうひの雪もつらき ぬ

新古今集上 何れもやまのふりあてて ちの乃

玉葉集二 月のつら枕の山あけり けらく

月清集上 ちのつらん人へ ぬまてぬへ

拾玉集二 ありあけつらふせよとて 山里れ

新古今集上 春もよる人とも 誰とて ちの世の

月清集上 ちのれしとて ちのひり ぬまて

新古今集上 山下風乃ちきさう ちの海まき ちの

新古今集上 ちのぬあし ちのれぬ ちのひり ちの

新古今集上 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

月清集上 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

於玉集七 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

風雅雜中 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

新古今集下 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

新古今集上 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

月清集上 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

新古今集上 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

新古今集上 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

玉葉集一 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

新古今集上 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

新古今集上 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

新古今集上 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

新古今集上 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

新古今集上 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

新古今集上 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

新古今集上 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

新古今集上 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

新古今集上 ちのれぬの ちのれぬの ちのれぬの

風雅雜中

五葉秋上

思ふ人相もなきよふ念山
吹さらけぬ山よひくわき風よ

のこころなるるれたうき
のこころなるるれたうき

中納言忠孝

月清集上

新葉秋下

山人のこの下るに後ぬらん
秋の葉れ便もつき鹿か

のこころなるるれたうき
のこころなるるれたうき

右近大納言

猿衣一

壬生三不中

し女子に平もゆらんあ宿れ
香けりつ岩の山寺もついで

のこころなるるれたうき
のこころなるるれたうき

院中

新古今

五葉秋上

初人のすゝめをちや後ぬらん
初人のすゝめをちや後ぬらん

のこころなるるれたうき
のこころなるるれたうき

院中

壬生三不下

月清集下

しらつらひもあふ人のこころ
しらつらひもあふ人のこころ

のこころなるるれたうき
のこころなるるれたうき

院中

五葉秋三

後古今

夕れぬまよ吹た山くせり
夕れぬまよ吹た山くせり

のこころなるるれたうき
のこころなるるれたうき

院中

五葉秋上

壬生三不下

ゆめぬふんかき風ゆふれ
ゆめぬふんかき風ゆふれ

のこころなるるれたうき
のこころなるるれたうき

院中

拾玉集上

拾玉集四

うらも祓す物夜ふけくちき
うらも祓す物夜ふけくちき

のこころなるるれたうき
のこころなるるれたうき

院中

長秋詠集

五葉秋下

やひやれ葉のぬれぬのうらよ
やひやれ葉のぬれぬのうらよ

のこころなるるれたうき
のこころなるるれたうき

院中

於送自外上

於玉集二

春とてはるのほまるとみれは
春とてはるのほまるとみれは

のこころなるるれたうき
のこころなるるれたうき

院中

於送自外下

風雅五

夕月夜けらふ雲を涼しくて
夕月夜けらふ雲を涼しくて

のこころなるるれたうき
のこころなるるれたうき

院中

於玉集一

風雅六

方のうらみはすまよとれは
方のうらみはすまよとれは

のこころなるるれたうき
のこころなるるれたうき

院中

月清集上

拾玉集四

夕月ぬよ雲を結いてる月ハ
夕月ぬよ雲を結いてる月ハ

のこころなるるれたうき
のこころなるるれたうき

院中

同六

於送自外上

夕月ぬれ雲を結いてる月ハ
夕月ぬれ雲を結いてる月ハ

のこころなるるれたうき
のこころなるるれたうき

院中

風雅五

月清集下

夕月ぬれ雲を結いてる月ハ
夕月ぬれ雲を結いてる月ハ

のこころなるるれたうき
のこころなるるれたうき

院中

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

